



### 平成28年度 総会

平成28年6月19日(日)  
駅南キャンパスときめいと



### 懇親会

理学部のますます発展を願い親睦を深めました



## 新潟大学理学部同窓会

# 会報

第17号 2016.07.29



### ヤマボウシの花

同窓会25周年記念事業として  
植樹した「ヤマボウシ」の花  
が咲きました



## ごあいさつ

理学部同窓会会長 野本 憲雄

昨年7月に、「新制理学部同窓会」が発足から25周年を迎えたことを記念して、理学部同窓会25周年記念式典・講演会・祝賀会を実施させて頂きました。ご出席頂いた皆様、ご協力頂いた皆様大変ありがとうございました。講演会では、同窓生で岩手県立大学学長の鈴木厚人先生から、「素粒子に魅せられて」という素粒子研究50年を顧みられたご講演を頂きました。ノーベル賞候補に挙がっておられる先生だけに、引き込まれる素晴らしいご講演でした。祝賀会は、時間の経つのも忘れるほど盛り上がり、大変いい会になりました。記念事業としては、名簿の発行と記念植樹をさせて頂きましたが、いま山法師の花が理学部の前庭で盛りを迎えています。

さて、昨年、文部科学省は28年度の国立大学法人運営費交付金に係って、国立大学を、①卓越した世界的レベルの教育研究（16大学）②強み・特色ある分野で地域というより世界・全国的な教育研究（15大学）、③地域貢献とともに、強み・特色ある分野での世界・全国的な教育研究（55大学）の3グループに分類する方向と報じられました。また、教育免許状取得を卒業要件としない教育学部の「ゼロ免」を廃止し、社会的要請の高い分野に転換するよう求めるとの報道もありました。ご承知の方もおいでのことと存じます。

このことに関して、昨年の大学と全学同窓会との懇談会で、高橋 姿学長さんから「新潟大学の将来展開に向けた機能強化基本戦略」についてお話を伺いました。新潟大学は、国立大学法人運営費交付金における

③の分類に属すること、これを受けて地域貢献及び強み・特色ある分野の課題に中期計画で優先的に取り組むとして、①人材養成システム改革、②社会貢献システム確立、③イノベーション創出環境醸成を進めるとお話がありました。

さらに、このお話に呼応して今年2月理学部同窓会役員会に併せて開催した理学部との懇談会で、松尾正之理学部長さんから、教育学部の「ゼロ免」廃止分の定員を活用して、問題発見する力や解決法を導き出す力を育てる「創生学舎」（その後「学部」に変更になったと伺いました）（定員65人）を設置する構想と、理系3学部の改革についてお話を伺いました。理学部は定員を10人増するとともに、現行6学科を廃して1学科に再編（工学部、農学部も定員をそれぞれ50人及び20人増するとともに、1学科に再編）すると伺いました。また、農学部とのフィールド科学人材育成プログラムの構築についてもお話がありました。ドラスティックな改革案だけに、役員の方から数多くの質問が出ました。

皆様には、母校新潟大学・理学部のこれからに関心を持って頂き、皆様とともに理学部がますます発展して行くよう応援していきたいと思っています。そしてさらに、些かなりとも理学部で学んでいる学生さんの支えになれるようにとも願っています。皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 生まれ変わる理学部

理学部長 松尾 正之

### ● 新潟大学の大学改革

新潟日報などの新聞各紙で報道されているように、平成29年度に新潟大学は学部教育を大きく改組・再編する準備を進めています。理学部もまた、その一環として、改組を計画しています。理学部では昨年度中にほぼ改組案を策定し、5月上旬には文部科学省に改組計画を申請しました。理学部がどのように変わろうとしているのか、同窓生の皆様にご理解をいただきたく、会報の場をかりて説明させていただきます(\*)。

脚注(\*)平成29年4月改組申請中のため、以下の説明内容は平成28年6月現在の予定であり、変更となる場合があります。

この2～3年、大学改革という全国的な大きな潮流のなかで、多くの国立大学では、新学部を設置したり既存学部を改組・再編する改革が進みました。新潟大学では、平成29年4月に、教育学部の学校教員養成課程以外の課程(学生定員150人)の募集を停止する一方、理学部、工学部、農学部の理系3学部は改組して学生定員を増員し(それぞれ10人、50人、20人の増)、さらに、新しい学部である「創生学部」を設置する予定です。新学部設置に加え、理系3学部はいずれも従来の複数学科制から1学科制に変更すると同時に教育プログラムを再編する改組案ですので、大きな変化といえます。紙幅の関係で理学部以外の他3学部改組・設置の内容については触れられませんが、ぜひ、新潟大学のホームページおよび各学部のホームページをご覧ください。

### ● 理学部の改組の理念

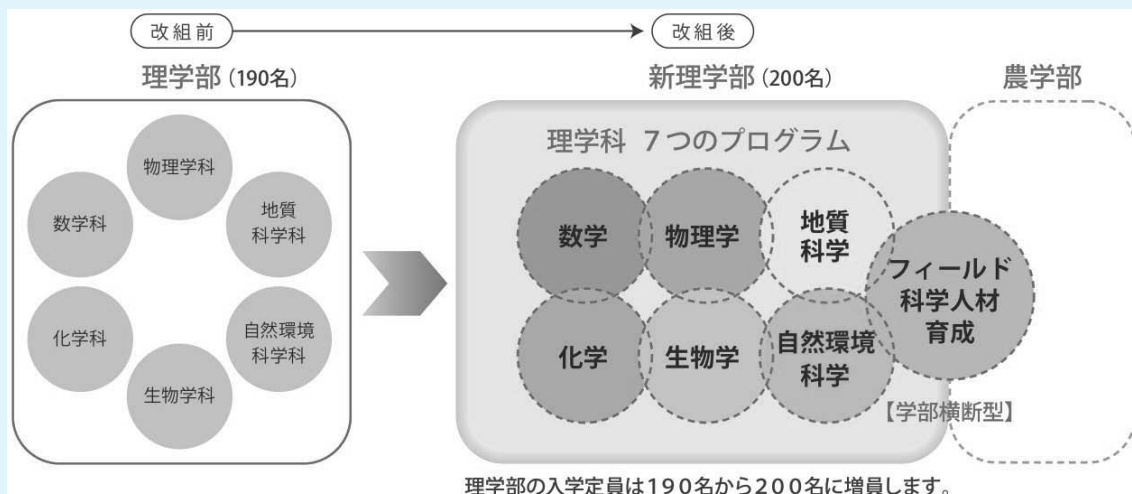
理学部の教育の使命は、科学を学んだ学生がその

成果を社会に生かす、ことだと私は考えます。昨今、社会発展の駆動力としての科学技術のイノベーション、災害に対して強靱で安全快適な社会環境の実現、などの社会的課題がクローズアップされており、これらを支える理工系人材の育成が要請されています。なかでも、先端技術や産業構造の変化に伴う新しい課題や事業に柔軟に対応できる能力の重要性が指摘されているところです。

基礎学問としての理学は、元来、物事の原理を深く考え未知の課題を探究することを得意としており、このような現代社会の要請に応えていく上で大きな強みです。しかし、この強みを発揮するには、理学各分野の専門的な能力を鍛えるだけではなく、専門分野を超えて新しい課題に取り組む力、それを支える創造性や柔軟性、あるいはチームワークに不可欠なコミュニケーション能力などもこれまで以上に養成していく必要がある、と理学部では考えました。そして、そのような理念に基いて、今回の理学部の改組を構想しました。

### ● 分野を横断する新しい理学教育

改組によって理学部は以下のように新しくなります。まず、大きな違いとして、従来の6学科を理学科1学科にまとめ、7つの主専攻プログラムを設けます。(ちなみに、新潟大学では専門教育のプログラムを主専攻プログラムと呼んでおり、改組前は、各学科が主専攻プログラムに対応していました。)7つのうち6つは、現在の学科に対応する数学プログラム、物理学プログラム、化学プログラム、生物学プログラム、地質科学プログラム、自然環境科学プログラムですが、これに加えて、フィールド科学人材育成という新プログラムを新設しま





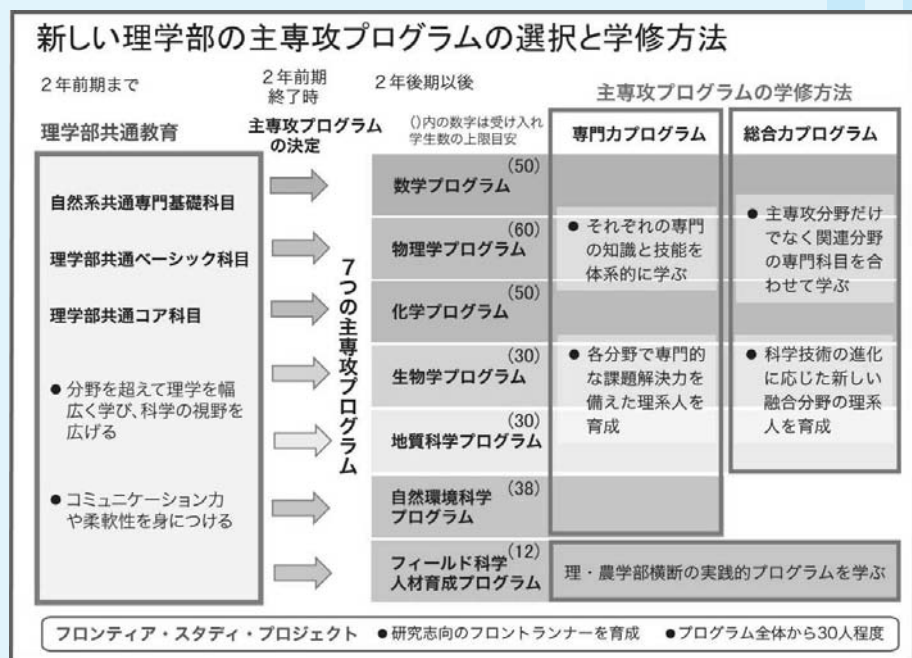
す。これは、理学部と農学部が協働して設置する学部横断型という全く新しいタイプのプログラムです。すべてのプログラムを理学科1学科のもとに配することで、従来にない分野横断型の教育を可能にしました。また、理学教育の強化に対応して、入学定員は理学部全体で従来の190名から200名に増員します。

### ● 新理学部教育の特徴

新しい教育課程の特色は4点あります。第1は、2年生前半までの理学部共通教育です。入学後1年半は、主専攻プログラムにわかれず、学生の好奇心を大きく伸ばし、科学の視野を広げる新しいカリキュラムを設定します。例えば、特徴的な理学部共通科目として、アクティブ・ラーニングを導入します。グループワークを通してコミュニケーション力を養うこと、また、先端研究や社会の中での基礎科学への意識付けを通して主体的な学習動機を養うことを目指しています。また、希望する専門を目指して基礎を築く期間でもあります。現行のシステムでは、例えば物理学科の1年生は物理基礎実験だけを履修していますが、新しいシステムでは、学生は、希望に応じて、1種目の基礎実験を履修することも、また、2種目以上（たとえば物理と化学の実験）を履修することも可能になります。このように、学生の多様な希望の尊重と幅広い知識技能の獲得とを両立させる共通教育を設計しています。

第2の特徴として、2年生後半以後に主専攻プログラム毎に分かれて実施する専門教育においても、分野横断型の学修を可能にしました。主専攻プログラムの各分野において、専門的な課題解決力を育成する、いわばひとつの専門をきわめていく学修方法に加え（これを“専門力プログラム”と呼んでいます）、複数の専門分野にまたがる新しい課題の解決能力を育成することを目指し、関連分野を合わせて履修する学修方法（これを“総合力プログラム”と呼んでいます）を導入します。たとえば、バイオ情報技術に関心のある学生が、生物学を中心に学びながら情報数学の授業も組み合わせるといったことを可能にするものです。

第3の特徴は、学部横断型の「フィールド科学人材育成プログラム」の新設です。理学分野の基礎科学と農学分野の応用科学を融合し、野生動植物の生態系の理解や保全、災害対策、環境動態など野外の



様々な場面で必要とされる知識と技術を併せ持つ実践的な人材を養成するプログラムです。佐渡にある理学部附属臨海実験所、農学部演習林、朱鷺・自然再生学研究センターを活用し、さらに災害・復興科学研究所とも協働してフィールドワークを特色とするプログラムで、今回の改組の目玉のひとつです。

第4の特徴は、多様なキャリアパスへの対応です。理学部には、研究者を目指す学生、高校や中学の理科・数学の教員を目指す学生とともに、むしろ、非常に幅広い分野の民間企業や自治体等の技術者として社会での活躍を目指す学生が大多数を占めます。上記の改革は、いずれの学生にとっても、科学を社会に生かす力を強化するものですが、それに加えて、理学部学生のそれぞれのキャリア志向を伸ばしていく仕組みも導入します。その一つが、科学研究や特定分野を目指し強い意欲をもつ学生を、積極的な学修のフロントランナーとして育成する仕組み「フロンティア・スタディ・プロジェクト」です。また、3年前から県内44企業・事業所にご協力いただいている「理学部キャリアフォーラム」の活動を一層強化し、多様なキャリア教育を展開していきます。

### ● 温かいご支援をお願いします

今回の改組計画は、現代社会における理学部教育の役割を新たに見つめ直す機会となりました。受け入れ元である高校生にとって一層魅力的な理学部、また、卒業生を受け入れていただく社会の要請にもこたえる理学部となることを目指しました。同窓生皆様の温かいご支援をお願いする次第です。なお、入試など改組案の詳細に関しては、大学および理学部のホームページなどをご覧いただければ幸いです。

## 理学部 後援会より

後援会会長

佐藤美樹



新潟大学同窓会会員の皆様方におかれましては、日々ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より後援会の活動にご理解を頂きまして感謝申し上げます。

理学部の平成27年度卒業生の進路状況は、ほぼ100%に近い決定率で、内訳としては約半数が大学院進学、次いで企業等への就職、公務員、教員と幅広いフィールドでの活躍が期待されます。就職については、若干の売り手市場とも伺っております。このように理学部の卒業生が世間から高い期待と評価を頂けるのは、先輩のみなさまが社会でご活躍され、信頼を得ていることが大きな力となっていると感謝いたしております。

先生方のご努力にて理学部では、新元素の発見者である森田教授をお招きしてのシンポジウムや国際交流授業、キャリア・フォーラム等学生には素晴らしい企画が多く開催されます。後援会としましても、陰ながら協力していく所存です。同窓会会員の皆さまには、学生が自信を持ち社会に貢献できるようご指導そして応援して頂けたらと思っております。

今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

## 全学同窓会からのお知らせ

### ●野本憲雄新会長就任

4月1日付で理学部同窓会長・全学同窓会理事の野本憲雄氏が全学同窓会の第四代会長に就任されました。理学部同窓会としても事務局・役員会を中心に全学同窓会の運営と野本新会長を支えていく所存です。

### ●創立10周年記念事業挙行

昨年度、全学同窓会は10周年を迎え、平成27年10月24日(土)に記念行事(記念講演会、記念式典、祝賀会)が挙行されました。詳細は全学同窓会HP、広報紙「雪華」15号をご覧ください。このほかに10周年記念として、キャンパスをリアルタイムで映すライブカメラ2台(大学のHPからキャンパスの映像をご覧いただけます)、筋力トレーニング機器類を寄贈いたしました。

### ●雪華支援事業について

「新潟大学の発展と社会への貢献に資する」という全学同窓会の運営理念に合致する事業を支援するため、2008年度から公募型の雪華支援事業(1件あたり50万円以下の助成)を実施しています。2016年度も8月12日を締切とする公募を行い、総額350万円を助成いたします。これまでの採択事業の詳細は全学同窓会HPに公開されています。

### ●賛助会費納入のお願い

前述の「雪華支援事業」の予算は同窓生からの賛助会費を原資としています。応募件数は年々増加しており、採択された事業(2015年度は24件)は、母校のブランド価値の向上、好感度アップにも貢献しています。事業拡大のためにも賛助会費の納入をお願い申し上げます。

## 首都圏同窓会

## と私

## 首都圏同窓会に関わって

化学科 昭和47年卒 飛鳥 滋

私が首都圏同窓会で現在幹事の一人であるのは、特に強い意思に突き動かされてでも何でもなく、偶然の成り行きである。生まれ故郷でもある新潟には特別の思いがあるから、いったいどんな人たちのどんな集まりなのか、覗いてみる気になった。

技術講演が主体であったが、自分は、仕事の上では理学部で習った専門的内容はほとんど使わず、また不勉強の極みで化学科の卒業生とも言えない程度になっていたから、これが最初で最後かなと思って聞いていた。その後のラウンジでの懇親会も、知らない顔ばかりなので、時間が持たなくなり帰ろうかと時計を見た。

そこに、化学のかなり上の先輩が「あんたは初めての顔だね。彼が〇〇で、彼女が△△、みな化学科だ」とか言って旧知のように次々と紹介をするのである。おかげで1人浮いていた感じがどこかに行ってしまう、一変、話が弾んで苦も無くお開きまで過ごした。

そして、その先輩の誘いにまんまと乗って、考えてもみなかった化学科幹事の1人に引っ張り込まれて今日に至っている。

私の役目は、総会の案内の封筒書きくらいだが、これがなかなか簡単なようで100枚の封筒に宛名書きをし、案内状とはがき、振込用紙を入れて糊付けし、郵便局に投函、までいくと日曜まる1日がかかりとなる。ちょうど職場が一番忙しい時に重なるので、内心、後悔しつつ作業をする。

しかし、すでに封筒書きも数回になると、あ、この人だった、と名前だけで知っている人の様な気持ちになる。そうすると、卒業年次を考え、勝手に日常をイメージして何となく他人と思えない。卒業年次が早い人は、お元気なのかなと、封筒にペンを走らす30秒弱の短い間だけではあるが、すこし気になる。

投函して数日後からばらばらと返信はがきが届く。出欠の往復はがきの返信先は私宛てだ。欠席の返事が大部分であるが、それでも通信欄に「いつも御苦労さま」と書いてくれる人も。「いつも」という言葉は、私を少なくとも通信の上で認識してくれているということではないか。通信欄に出席できない理由を書いてくれる人も少なくない。気を遣わせているかなと少し申し訳ない気分になるが、これも気持ちが通じている別の形態なのと言えなくもない。40通くらい届く返信はがきを見ると、あの封筒書きが、こんなに多くの人と気持ちを通じるものになるとは、と大いに報われた気分になる。

返事が来ない方が多いのだが、私の時がそうであったように、偶然来る気になってもらえるかも、との期待もあり、とりあえず繰り返し出している。同期や期が近いなど、知っている人には、相手が返事を書くのに少し気を遣わせるかなあ、などと自意識過剰に考え、出すのを躊躇するなど、なんとも疲れるタイプの自分だが、ほかの幹事の皆さんに引きずられながら何とか幹事を続けている。



## 数 学 科

学科長 渡邊 恵一

理学部は来年度からこれまでの6学科を1学科7プログラムに再編します。数学科が理科の5学科とともにひとつとなるということは、主専攻プログラムとしては数学であっても、大きい変革となるでしょう。

昨年8月に應和宏樹先生が自然科学研究科助教から理学部准教授へ配置換・昇任されました。これにより、おもに定年退職にともなう数年間続いた教員の異動も一段落を迎えました。数学科そして数学プログラムが新理学部とともにますます発展して行くよう、教員13名と職員1名の計14名、決意を新たに頑張りたいと思います。

昨年9月に4年生1名が卒業し、大学院に進学しました。本年3月に4年生41名が卒業し、うち11名が大学院に進学しました。また博士前期課程を19名が修了し、うち6名が後期課程に進学しました。4月には県内19名と県外18名、計37名の新1年生と、5名の3年次編入生が入学しました。

毎年恒例の新入生合宿研修は、西蒲区の県立青少年研修センターが耐震性の問題で利用できなくなったため、残念ながら今年度は行われませんでした。その代替措置として、4月21日に新入生に集まってもらい、各学生の履修登録状況を参照しながら、1年生アドバイザーを含む5名の教員による履修指導および懇談を行いました。5月の理学部コロキウムでは、應和先生が「解けない微分方程式を解析してみよう」という演題で、未解決の難問にかかわる内容を、専門外の学部学生にも主旨が分かるように工夫を凝らして研究紹介されました。今年度は9月にも、数学分野の進路となる企業から講演者を招いて理学部コロキウムを行っていただく予定になっています。7月には、ともに本年3月に学部を卒業された高橋季記さんの「ICT・通信業界の紹介と就職体験談」と豊嶋大生さんの「教員という職業」による数学科講演会が開催される予定です。

近年、意欲・能力ともに目覚ましい学生が少数ながら各学年に散見され、自主ゼミ等を行って勉学に打ち込んでいるようです。一方、30年ほど前と比べると、平均的には学力が低下しているように思えることも否定できません。この両者に対応していかなければなりません。来年度からの組織改編をチャンスと捉えて全力を尽くしてまいりますので、今後とも皆様から暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 物 理 学 科

学科長 小池 裕司

物理学科には、平成27年度に新たに2人の先生を迎えました。物性理論分野の吉森明先生は、1昨年度末に京都大学に転出された柳瀬陽一先生の後、平成27年10月に九州大学から着任されました。吉森先生の専門は化学物理で、液体の動的性質や生体系での役割、ソフトマターへの応用などの研究をしておられます。また、素粒子実験分野の早坂圭先生は、やはり1昨年度末に北

里大学に転出された川崎健夫先生に代わり、名古屋大学より平成28年の3月に新潟大学に着任されました。早坂先生は、筑波にあるKEKで行われているBelle/Belle II実験に参加し、電子の仲間であるレプトンの関わる新現象の探索を通じて素粒子世界の物理を理解しようとしておられます。他方、平成27年度限りで新潟大学から転出された先生もいらっしゃいました。物性理論の金鋼先生は大阪大学に転出されました。また、所属は超域研究機構でしたが、物理学科の教育に協力いただいた物性実験の中山敦子先生も岩手大学に転出されました。

6月3日(金)には、毎年恒例のケルビン祭が開催されました。各研究室の紹介や学生と教員との対話集会の後、理学部正面玄関前でバーベキュー大会を行いました。当日には物理学科卒業生の中山高様からの寄付金を基にした「中山賞」と同窓会からの支援により設けた「物理学科同窓会賞」が、それぞれ3名の成績優秀な4年生に授与されました。

6月13日—17日には、原子核物理の教員が中心となり、本学総合図書館のライブラリーホールにて国際スクールNIC-XIV School 2016を開催しました。これは、翌週に朱鷺メッセで開かれる天体核物理学の大規模な国際会議NIC-XIV(14th International Symposium on Nuclei in Cosmos)のプレスクールとして開催されたもので、著名な外国人講師とともに数名の物理学科教員が院生やポスドクを対象とした講義を行い盛況となりました。

平成29年度からは、改組により理学部は理学科のみの1学科構成となります。これまでの物理学科の教育・研究は、理学科の物理学プログラムに引き継がれます。そのため、昨年来、カリキュラムや入試体制の整備に追われあわただしい日々を過ごしています。

## 化 学 科

学科長 梅林 泰宏

今年度学科長を仰せつかっている梅林と申します。私事ですが、本学に着任して早いもので4年が経ち、微力ながら学科長を務めさせていただいています。化学科は、昨年度、学部卒業33名、大学院博士前期課程修了17名、博士後期課程修了3名(うち、社会人課程1名)を社会へ送り出しました。卒業生・修了性の進路は、学部卒業生では19名が大学院に進学し、11名が民間企業や公務員、教員などに就職しました。大学院生では、後期課程へ3名が進学し、前期課程および後期課程、それぞれ11名および2名が民間企業などへ就職しました。また、先生方では、キャリアフォーラムを立上げになるなど、主に進路・就職で活躍された宮下孝洋教授が任期を終えられました。16名の教員と2名の職員は引き続き元気に活躍しています。

4月には、38名の新1年生と1名の3年次編入生のニューフェースを迎え、化学科恒例の新入生教員懇談会や縦コンで歓迎しました。新聞報道などで既にご存

知の方も多いと思いますが、理学部は来年度改組により理学科という1学科へ移行します。今年度の1年生は、化学科最後の1年生ということになります。伝統ある化学科最後の1年生に卒業生の皆さんからもエールを送っていただければと思います。

教育研究では、工藤久昭教授と後藤真一准教授が共同研究に参画した113番元素の発見と命名権の獲得は、昨年末の全国ニュースや全国紙による報道でご存知かと思いますが、化学科や理学部だけでなく本学全体で大きな成果と喜んでます。また、大江一弘助教が参画した国際共同研究では、ローレンシウムのイオン化エネルギーの測定に成功し、Nature誌の表紙を飾りました。加えて、化学科の先生方を中心メンバーとして運営、活動してきたグリーンケミストリー連携教育研究センターは、ユビキタスグリーンケミカルエネルギー連携教育研究センターへと発展しました。

来年度から化学科は、化学主専攻プログラムへと変わりますが、教職員は今後も化学科および化学主専攻プログラムの学生と数理物質科学化学コースの大学院生の教育に一丸となって取り組み、より一層の研究成果を目指します。同窓会の皆様には、これまでと変わらぬご指導、ご高配を賜りますようお願い致します。

## 生物学科

学科長 長束 俊治

今春は19名の学生さんが生物学科を卒業しました。内12名が大学院へと進学し、今も新潟大学で勉学に勤しんでいます。他に6名が企業へと就職、1名が高校の教員になり、今年もおかげさまで就職率100%を達成することができました。就職は、学生さんや保護者の方々の最大の関心事であろうかと存じます。今後も特に地元の企業様との連携強化をはかり、学生さんの希望に沿った就職をサポートしていきたいと考えております。

一方新入生は20名で、今年の特徴は県外からの学生さんが多いことです。そのこと自体は悪いことではありませんが、県内からの受験生が減った可能性もありますので、卒業生の皆様のご配慮を頂けると幸いです。例年どおり4月に新入生懇談会、5月には佐渡研修旅行を実施し、新入生と上級生・教職員の親睦を深めることができました。一昨年に私が引率しました時には海が荒れ大変でしたが、今年は天気も良く海路も穏やかで快適だったようです。来年度以降は改組や予算の関係でこれらの行事がどうなるかは未定ですが、できる限り同様の趣旨の会を催したいと考えています。

この一年間、教職員の異動はありませんでした。団塊世代の先生方の退職ラッシュが過ぎ、一段落付いた状態です。今後は、次の世代交代に向けての準備を始める必要があります。

さて、来年度の改組（執筆時予定、以下同様）によって、生物学科は生物学プログラムと名称が変わります。同時にカリキュラムも大幅に変更となり、一年間を4期に分けるクォーター制も併せて導入されますので、目下それらの準備に追われています。生物学プログラ

ムでは、受け入れ可能人数を、従来の定員よりも大幅に増やすよう準備を整えつつあります。変更の内容等詳細はホームページ等や直接のお問合せによりご確認頂ければと存じます。高校訪問などによる広報活動も行っています。改組後も教員一同、生物学科の伝統を守り伝え、さらに発展させていく所存でございますので、何卒今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 地質科学科

学科長 サティッシュ クマール

平成29年度理学部1学科制改組に伴い、今年度組織や教育研究体制について多くの議論を行いました。地質科学科は非常に重要な局面を迎えており、フィールドジオロジーの従来の教育体制を守りつつ、社会のニーズに答えるような新しい理学教育への発展を目指しております。

このような転換期を迎える環境の中、今年3月に4年生21名が卒業し、うち9名が大学院に進学しました。就職率は100%、多くの学生が地質関連企業へ就職しています。教職員の異動については、新川公先生が3月末に定年退職されました。椎野勇太先生が4月に助教から准教授へ昇格されました。また教室事務員の大竹さんが4月に復帰しました。

地学普及を目的として、大学院生と学部学生が中心となり、6月には「地質の日サイエンスフェスティバル in 五十嵐キャンパス」を、10月には新潟大学WEEKの「地質まつり」を企画し、地質の面白さを伝える各種イベントを行いました。11月に理学部コロキウムでは、高橋俊郎先生が「沈み込み帯に産する安山岩の岩石学的・地球化学的研究？同位体比を用いた研究例？」というタイトルで研究紹介を行いました。また3月に自然科学系第10回 市民公開セミナーでは、植田勇人先生が「プレートにかきまわされる大地：深海の調査から探る」というタイトルで講演を行いました。

国際交流では、9月に台湾で開催された姉妹校による国際シンポジウムICNS2015に当学科から2名の教員と多数の学生が参加講演し、現地で地質巡検にも参加しました。また大学院の博士後期課程では留学生（中国・韓国・台湾・インドなど）の受け入れが増加し、より活発な研究交流が行われています。大学院生の研究活動としては、当学科の学生が日本鉱物科学会論文賞、日本地球惑星連合大会学生優秀発表賞、日本鉱物科学会研究発表優秀賞を受賞しました。

昨年に引き続き学科予算が大幅に減少し厳しい財政の中ですが、学科一丸となり変わらずフィールドジオロジーの大切さを次の世代に伝えていきたいと思っております。今後とも地質科学科への暖かい御支援を皆様から賜りたくお願い申し上げます。

## 自然環境科学科

学科長 松岡 史郎

自然環境科学科ではここ数年人事の異動が続いていますが、昨年度は濱口哲先生が退職されました。濱口先生は、教養部時代から平成6年の学科発足を経て昨年度ま



での長きにわたり、本学科の教育・研究だけでなく大学運営に対しても多大な貢献をされました。「胡蝶の夢の35年間－メダカと学生たち－」の題目で行われた最終講義には、教職員だけでなく多くの卒業生も集まり、皆一様に先生のご退職を惜しまれていました。濱口先生はご退職後も理事として引き続き大学に残られ、大学全体が大きく変わろうとしている中で難しい大学運営にあたられます。

本学科はまた、平成27年度に31名の学部4年生を輩出しました。大学院に進学した人も居れば県内で就職した人、また新潟を遠く離れて就職した人も居たりと、卒業生の進路は様々ですが、新たな環境に適応しながら皆元気に頑張っている様子が直接・間接的に伝わってきており、そのたびに彼らの入学当時からの成長ぶりをひしひしと感じております。

一方この4月から、本学科では33名の新生を迎え

ることになりました。平成29年度からの改組により理学部は一学科となりますので、自然環境科学科としては最後の新生を迎えたこととなります。入学後ほどなくして開催された新生歓迎会では、これが学科として最後の新生歓迎会であることを考えると、何となく寂しさも感じました。

5月の連休明けの明けには、これまた学科として最後の新生研修が海辺の森キャンプ場で行われました。入学後1ヶ月が経ち、高校生のときとは大きく変わった自分自身の生活を見つめなおすための良い機会になったと同時に、友人同士の絆をさらに深めあう機会にもなったことと思われま。

7月1日からは本学科の生物系に宮崎勝己先生が着任されました。本学科にとどまらず、学部の教育・研究にも良い影響がもたらされることを確信しています。

## 支部だより

### 数学科

支部長 樋浦 卓嘉

平成28年度は、4月23日に役員会を開催し、28年度事業計画27年度決算、28年度予算を決めました。また、6月19日には、支部総会に替わる理事会を開催したところ20名近い理事の方々からお集まりいただきました。この理事会では28年度事業の承認、予算決算案の承認と支部内の役員について見直し、さらには10月下旬に予定されている今年度の在校生と卒業生との懇談会について審議をしていただきました。支部内の役員につきましては、関川浩永副支部長(第14回)が退任され、武石文雄さん(第20回)に就任していただきました。また、数学科代議員が13名から12名に減員になるのに伴い、若干の異動がありました。理事についても見直しを検討していますが、今後の役員会で決定していきたいと考えています。

今年度の数学科支部の事業としては、昨年も実施した「在校生と卒業生との交流会」があります。この事業は各方面で活躍している卒業生の中から2人程度に講師をお願いして在校生に体験等を講演してもらい、その後在校生の質問などに答えることなどで、在校生との交流を深めるものです。この事業について理事会でも検討されましたが、今後役員会等でさらに詰めていきたいと思ひます。

ここ数年、支部行事等に若い会員の皆様の出席が少ない状況が続いています。支部活動の活性化のためにも若い会員の皆様のご協力をお願いいたします。支部会員の皆様には、これまで同様数学科支部にご支援、ご協力よろしくお願ひいたします。

### 物理学科

支部長 麩沢 祐一

このたび、物理支部長となりました麩沢祐一です。今年教職を定年退職しまして、現在60歳です。大学院を昭和55年に修了しました。わからないことだらけで、事務局には、大変ご迷惑をおかけしております。申し訳ございません。

さて、物理支部の役員ですが、私の他に、笹川民雄さんが副支部長になりました。やはり教職を今年退職

し初めての役員です。どうかよろしくお願ひします。

今年4月以降の活動は、6月19日(日)理学部同総会の総会に先立ち、支部の代議員会を開催し、総会に出席しました。出席者は、笹川民雄、本間正宣、豊田幸雄、岩見敏明、そして私の5人です。他の支部の活動を参考にしまして、活動を広げていきたいと考えております。どうかご支援ご協力をお願いいたします。

### 化学科

支部長 畠野 弘通

理事、代議員の方々にご協力いただき、理学部同窓会役員会や総会、全学同窓会交流会に参加をしてきました。

今年は大きな報道が2つあり、1つは、新大理系3(理・工・農)学部が、次年度、改組の予定とのこと。理学部は学科をなくし、学生は、2年次後期から、主専攻プログラムを選択し、専門分野を学びます。数年後には、支部規約を変更する必要がある、また、支部への帰属にも課題があります。2つは、113番元素(Nh)の合成・発見に、同窓の工藤久昭理学部研究科長、後藤真一准教授が、共同研究者として、多大な貢献をされたことです。誠におめでとうございます。今年度中に、研究の一部やエピソードをお聴きする会を予定しています。

大学は、変革、競争を迫られています。会員の皆様方には、学部行事にご参加いただくなど、今後とも、ご支援、ご協力をお願いいたします。

### 生物学科

支部長 荒木 勉

同窓生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

例年、あまり変わり映えのしない生物学科支部ですが、一昨年は初めてのOB会員と学生との懇談会を開催いたしました。生物学科の学生向けキャリア支援事業に、同窓会も相乗りをさせていただき、学生・院生と同窓生との合同の講演会と懇親会を催しました。主として事業の実行に携わられた生物学科の先生方に感謝いたしております。昨年度も、同様の事業を開催したいと考えておりま

たが、諸般の事情により、小休止とさせていただきます。

今年度は、来春からの理学部改革に併せて、高校生物教員を対象として理学部と生物学科の説明会や交流会を開催すべく準備中です。理学部が理学科一つになることについて、もっと詳しいお話を聞きたい・したいという要望が寄せられておりますので、その双方の仲立ちを同窓会が受け持てないかと考えております。できれば、九月初旬から中旬にかけて開催できるようにと準備を始めました。

なお、同窓会の規約に従い代議員が九名から八名に減員になり、事務局の長谷川さんの兼務を解きました。また、役員の交代も考えておりますので、若い方々のご参加をお待ちしております。

## 地質科学科 支部長 田澤 純一

地質科学科の「卒業生と在校生の集い」が昨年10月17、18日に開かれ、下村博之(33回卒、パスコ)、戸田(福島)亜希子(46回卒、大林組)、峯崎智成(31回卒、三井石油開発)の3氏が職場紹介をしました。夕方からの懇親会「秘酔」には田村伸夫幹事長(20回卒)ほか数名の卒業生も参加し、在校生と歓談しました。

新年会は、今年2月6日に関屋田町の「力鯨」で開かれました。最長老の熊谷 忍氏(4回卒)から最年少の本田孝子・本田万葉香・松永京子氏(55回卒)まで20名が出席し、各自近況と今年の抱負を語り、旧交を温めました。長谷川美行・周藤賢治・松岡 篤・高澤栄一先生も出席されました。これからも新年会を含め、同窓生が互いに会える機会をいくつか設けていきたいと思っております。

平成28年度の「土质地質学」は小野田 敏氏(31回卒、アジア航測)が担当します。

小林巖雄先生が平成28年春の叙勲で瑞宝中綬章を受

章されました。おめでとうございます。

昨年理学部同窓会25周年記念事業がおこなわれ、今年から第2の四半世紀が始まりました。ところで、来年(平成29年)理学部は1学科(理学科)7プログラム(数学、物理学、化学、生物学、地質科学、自然環境科学、フィールド科学人材育成)に再編されます。それに伴って同窓会の組織も数年後には変わることが予想されます。どうなることか気になります。

## 自然環境科学科 支部長 尾原 祥弘

今年度も、例年と同じように、総会と懇親会の開催、後輩支援事業の2つを柱に活動しています。また現在、総会とともにスポーツ交流会や講演会等の開催を役員・幹事一同企画しています。この会報と一緒に会員の皆様のもとへお知らせできるかと思っておりますので、同封されてくるお知らせをご覧ください、ぜひご参加ください。

後輩支援事業についても、近年定着しつつある在学生向け就職支援講演会を企画しています。時期は例年より遅くなる予定ですが、より多くの学生が来てくれるよう準備を進めていきます。今後も、学生の声を聞きながら、卒業生を講師とした講演会等の支援を行いたいと思います。

ご存知の方も多いかと思いますが、来年度より新潟大学理学部が大きく変わります。6学科が1学科となり、旧学科が主専攻プログラムと名を変え、新しい理学部がスタートする予定です。それに伴い、将来的に各学科同窓会の在り方も変化していかねばならないかも知れません。創環会も例外ではありません。今後の創環会について、一緒に考えていきましょう。

最後になりますが、今後も同窓会の活動にご理解とご協力をよろしくお願い致します。

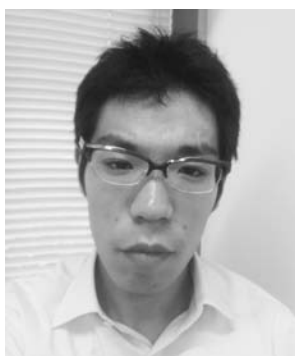
## 若手卒業生から

### 数学科

数学科 平成21年卒 阿部 敏一

私が新潟大学大学院の博士課程を修了してから2年が過ぎました。修了後半年ほど非常勤講師をした後、新潟大学の工学部で特任助教として教壇に立つことになりました。1年半の任期を終え、現在は新潟大学大学院自然科学研究科の博士研究員として研究を行っています。

研究をする中で、既知の結果を学ぶことはとても大切だと感じました。それらの問題が「なぜ」考えられ「どのように」解決したのかという中に含まれる「発想」や「考え方」が新しい問題を生み出し解決することに



繋がるからです。数学を学ぶ中で触れる発想や考え方は数学以外の場面でも活かされているように感じます。教壇に立つ際にはこのような発想・考え方にも注目できるように工夫したいと考えています。

研究活動を通して様々な面白い経験をする事ができています。これからも、色々な新しい経験ができることを楽しみにしています。

### 物理学科 平成26年卒 玉木 駿佑

私が、大学院を修了して、早3ヶ月が経ちました。現在、私は、新潟県内のIT企業で、研修を受けています。

研修では、社会人基礎力を養うものや、業務に必要な技術の基礎を身につけるものなどがあります。

多くのことが、大学では、学んでこなかったことですので、毎日が新鮮です。そんな中、大学で学んだこ



とで、社会人になっても  
活きたことがありました。

それは、「諦めない」  
ことです。大学での研究  
生活の中で、何度も諦め  
そうになったことがあり  
ました。そんな時に、教  
授から「大丈夫、諦めず  
やりなさい」と励まされ  
ました。そのおかげで、  
最後までやり遂げることが  
できました。



このことは、社会人になっても同じです。  
多くの課題とぶつかり、挫けそうになりますが、諦め  
ずにやることで、活路が広がります。

それを日々の研修で、感じています。

まだまだ、社会人として未熟ですが、頑張ってい  
きたいと思います。

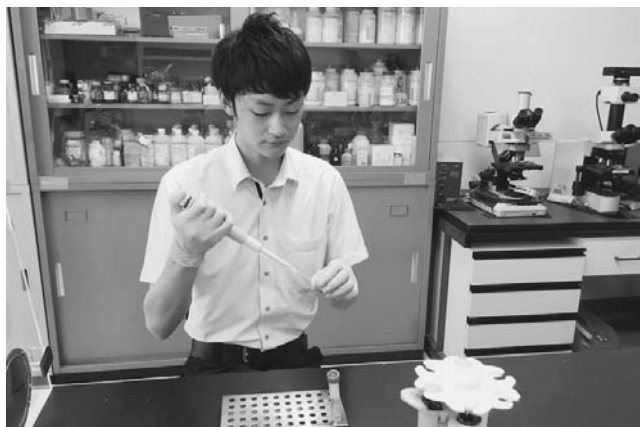
## 化 学 科

### 「大切な時間」

化学科 平成27年卒 岸 研登

私が新潟大学理学部化学科を卒業して早くも1年以  
上が経ちました。昨年度から警察庁に拝命し、DNA  
型鑑定の仕事に携わっています。また、今年度から自  
らの技術をさらに向上させるために、山梨県科学捜査  
研究所へ出向しています。現在、科捜研では様々な事  
件に関わる現場資料について、毎日試行錯誤しながら  
鑑定を進めています。最初は、大学の研究室で学んで  
いた分野とは全く違う職に就き、困惑することも多々  
ありましたが、自ら考察して実験をしたり、ゼミの発  
表で研究室の先生やメンバーと様々な議論を交わした  
ことが、現在の仕事に大いに生かされていると感  
えました。

新潟から関東へと就職しましたが、卒業後も私生活  
では大学時代の友人たちと遊び、大学で過ごしたとき  
のことを思い出し、大学での4年間は本当にかげがえ  
のない時間だったと感じています。社会人としてはま  
だまだ一人前とは言えませんが、これまで私と関わっ  
てくれた方々に感謝をしつつ、日々精進していきたい  
と思います。

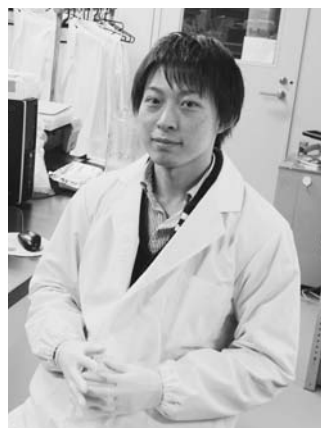


## 生 物 学 科

### 「一念天に通ず」

生物学科 平成24年卒 鈴木 隆寛

大学院の修士課程を修  
了して2年が経ち、社会  
人3年目を迎えました。  
卒業後は新潟県内の製薬  
会社に就職し、現在は診  
断薬の研究開発に従事し  
ています。当社で開発・  
製造する診断薬やワクチ  
ンなど、その大部分は抗  
体をはじめとするタンパ  
ク質が原料です。大学の  
研究室では主にタンパク  
質を実験材料として研究  
を行ってきたため、その  
知識や経験を現在の仕事  
に活かせることをとても  
嬉しく感じています。



添付写真は在学中の研究室にて

思い返せば、私の大学時代は勉学一色でした。しかし、  
勉学を通して「意志を全うすれば、必ず結実する」という  
信念を築くことができたことを、私は誇りに思ってい  
ます。この信念こそが私の原動力です。

現在、こうして充実した社会人生活を送ることができ  
ているのは、大学時代の先生方や先輩方の御指導ご  
鞭撻の賜物です。お世話になりました皆様の期待を裏  
切らぬよう、今後も精進して参ります。

## 地 質 学 科

地質学科 平成18年卒 小河原孝彦

私は、新潟大学での長い博士課程修了後に、新潟県糸  
魚川市内のフォッサマグナミュージアムに学芸員とし  
て勤務しております。現在も石や化石の鑑定など、地  
質学科の時代に学んだことを生かして活動しています。

糸魚川市は、市の全域がユネスコ世界ジオパークに  
指定されています。ジオパークという言葉聞きなれ  
ない方も多いと思います。私たちの住んでいる地域は、  
大地(地質・地形)の上に生態系や人間の営み(歴史・



石の鑑定(本人左)

文化)が形成されています。それらを丸ごと学習することが、ジオパークの理念となります。

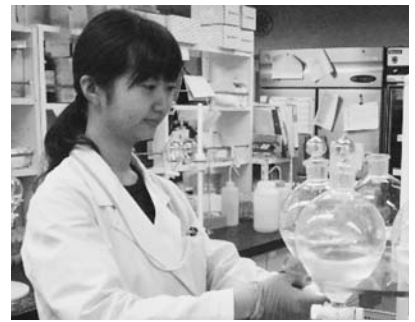
糸魚川ジオパークは、糸魚川-静岡構造線や親不知など見所がたくさんありますが、宝石質なヒスイが海岸や山で産出することで特に有名です。フォッサマグナミュージアムは、石と宝石の博物館として、糸魚川市内で採集されたヒスイの展示や、海岸で採集した岩石の鑑定などを行っています。ぜひ、糸魚川市の海岸で石ひろいを楽しんだ後はフォッサマグナミュージアムまで足を延ばしてください。

## 自然環境科学科

自然環境科学科 平成27年卒 矢島 千咲

新潟大学理学部自然環境科学科を卒業して1年が過ぎ、社会人2年目をとなりました。私は現在、環境検査の会社に就職し、飲料水や河川水、工場排水等に含まれる成分の分析をしています。学生時代には

PM2.5の成分分析と発生源の研究をしていましたが、その時に学んだ機器分析の手法は現在の仕事内容に通じる部分が多く、指導して頂いた先生や先輩方には今



でも感謝しています。また、現在資格取得を目指して勉強中なのですが、そこでは大学の専門の授業で学んだことが直結しており、今でも授業のノートを見返すことがあります。このように大学生活の中で得たものが日々の仕事の中で活かしている場面が多々あり、様々な経験を積むことができ良かったと心から思います。

まだまだ未熟な私ですが、住民の方々が安心して暮らせる環境作りへ貢献できるところにこの仕事のやりがいを感じています。決意を新たにこれからも仕事に励んでいきたいと思っています。

### 理学部同窓会整備・振興寄付金

### 拠出者御芳名(敬称略)

平成28年6月現在

#### ● 数学科

戸井田 正	小田 武夫	中里 博	中井 良
手代木 健	須貝 正登	野村 宗平	渡辺 譲
刈部 富雄	樋浦 卓嘉	那須野 恭子	川部 達哉
石黒 昭平	寺尾 芳樹	浅野 学	山本 融一
岩原 侑	井上 昭導	竹内 正文	白井 朗
土屋 和平	金子 正義	茨木 裕子	牛丸 智博
山崎 道子	永井 健樹	青木 孝史	若杉 正嗣
伊藤 道一	梅原 雄一	関矢 伸雄	笠原 宏文
岩田 隆子	伊藤 博	牧野 一也	玉田 鉄平
堀 行	伊東 幸芳	玉木 正己	関野 文瀬
千葉 宏	日比登 史男	城塚 敏通	佐々木 潔朗
吉川 益男	縷 詳子	田中 環	高橋 峰洋
伊藤 通明	福田 世喜	佐藤 浩一	

#### ● 物理学科

小林 修	小林 一男	高木 広道	石川 富二男	酒井 和幸
駒野 庄平	野本 憲雄	渡辺 静子	矢代 博行	鈴木 克
貝沼 次郎	高崎 功一	渡辺 研司	川田 尚	山口 隆
佐藤 英夫	本間 正宣	八木 隆志	佐藤 清悦	山崎 美穂子
金井 芳夫	堀 勝三	青柳 秀一	内藤 雅之	本田 瑞枝
森山 久夫	橋本 俊彦	上林 俊一	工藤 幸人	石井 雄介
赤塚 節	寺前 直子	前川 典明	武田 政義	菅野 義博
熊谷 周三	渡辺 俊英	高見沢 一男	風間 睦勇	緒形 桂
舟岡 矩夫	渡辺 孝一	鈴木 俊男	黒沢 昌基	宇治 敦史
和田 雅明	垣内 信夫	水谷 洋二	山田 徳昭	宮川 健太
多田 健一	坂井 貞夫	裕間 俊昌	伊藤 静香	小川 和也
関 正	白川 保憲	最上 正人	西脇 みちる	神 貴志
澁谷 龍生	関口 隆夫	前田 義憲	山田 高嗣	

#### ● 生物学科

南雲 照三	北田 泰之	丹羽 潤	猪熊 正則
曾我 浩	兒島 英介	林 正栄	頓所 裕史
平林 光雄	長谷川 博	富永 弘	榎本 喜美子
小田部 正広	清水 榮一	川瀬 良子	松本 真実
名和 亨	大滝 照成	磯部 浩伸	櫻井 幸枝
高橋 宗昭	細野 正道	戸田 明	福島 輝明
阿部 ヒカル	星野 嘉恵子	笹川 通博	渡辺 直樹
伊東 和江	小川 忠雄	藤原 信一	小宮山 恭吾
細谷 安彦	長谷川 英男	高橋 直一郎	山岸 稜平

#### ● 化学科

鈴木 俊雄	井古田 仁司	中山 三喜栄	石田 秀一	金子 洋介
伊藤 良夫	花見 英男	伊藤 光仁	高橋 邦明	山田 幹
片桐 啓三	半田 進	齋藤 清	青柳 義昭	近藤 健一郎
渡辺 初男	赤沢 宏	猪股 律子	三ツ寄 敏雄	高橋 聖美
梅澤 貞雄	石塚 紀夫	星野 洋子	小泉 恵	武田 海奈
三屋 彰	村山 幸夫	工藤 久昭	藤纏 崇	根岸 裕太
野島 威邦	谷川 義夫	福島 幹雄	橋本 雅文	鈴木 佑輔
大野 新一	青木 英二	二瓶 直子	松尾 和浩	猪股 教大
村川 忠司	久保田 芳宏	東田 良和	斎藤 博之	小泉 眞澄
松澤 澄江	小林 和雄	羽深 等	沼崎 恭子	
田才 邦彦	中山 久雄	鈴木 一恵	虎澤 昌弘	
永井 清	土屋 眞知子	山中 務	赤間 智也	

#### ● 地質科学科

倉又 孝夫	近藤 和久	下畑 五夫	佐藤 憲司
市村 隆三	加藤 靖夫	浜崎 邦正	山田 守
山岸 俊男	佐藤 禮子	佐々木 正	近藤 卷広
石野 禧夫	吉田 滋	岡田 正明	伊豫田 成子
石橋 輝樹	山野井 徹	佐藤 成昭	本田 小夜美

#### ● 自然環境科学科

松橋 麻里



別表 1

## 平成27年度 理学部同窓会決算

## 一般会計

収入の部	費目	予算額(A)	決算額(B)	比較(B-A)	説明
	終身会費・寄付金	5,000,000	4,977,000	-23,000	
	終身会費	4,000,000	4,140,000	140,000	新入生 207名 * 20,000円
	寄付金等	1,000,000	837,000	-163,000	正会員からの同窓会整備・振興寄付金H28.3.31現在243名
	他会計繰入金		792	792	25周年事業会計残余金
	雑収入	65,000	78,305	13,305	預金利息、名簿売上(無し)、支部補助費返金(無し)、等
	繰越金	635,000	635,000	0	
	合計	5,700,000	5,691,097	-8,903	

支出の部	費目	予算額(A)	決算額(B)	比較(B-A)	説明
	会議費	250,000	114,700	-135,300	諸会議交通費、会場費
広報費	700,000	736,058	36,058	同窓会誌「会報16号」、理学機関誌「理学部は今」、HP運営費	
理学部支援事業費	700,000	660,000	-40,000	グローバル人材育成推進事業補助、卒業祝賀会助成	
名簿編集費	20,000	0	-20,000		
負担金等	455,000	452,800	-2,200	全学同窓会賦課金	
支部交付金	460,000	460,000	0	50,000 * 6 + 160,000 = 460,000	
支部事業補助費	400,000	285,000	-115,000	数学、自然環境科学、地質科学各学科支部へ助成	
事務費・通信費	100,000	59,360	-40,640	光熱水費、郵送料、払込手数料、印刷費、消耗品等	
事務局費	550,000	576,400	26,400	事務局人件費	
会員宛郵送費	800,000	848,886	48,886	5807名(自然環境科学支部除く) 郵送用封筒他資料印刷費 + 自然環境科学支部 557名 郵送代	
人件費	200,000	192,000	-8,000	後援会パート手当	
小計	4,635,000	4,385,204	-249,796		
他会計繰出金	1,000,000	10,000	-990,000		
繰越金(予備費)	65,000	1,295,893	1,230,893		
合計	5,700,000	5,691,097	-8,903		

## 特別会計

特別会計	費目	収入	支出	残金	説明
	繰越金	13,000,000			13,000,000
H27年度積立金	0			0	定期預金(利息は一般会計に組み入れ)
	計	13,000,000	0	13,000,000	

別表 2

## 平成28年度 理学部同窓会予算

## 一般会計

収入の部	費目	前年度予算額(A)	今年度予算額(B)	比較(B-A)	説明
	終身会費・寄付金	5,000,000	5,000,000	0	
	終身会費	4,000,000	4,000,000		新入生200名 * 20,000円
	寄付金	1,000,000	1,000,000		正会員からの同窓会整備・振興寄付金等
	雑収入	65,000	78,000	13,000	利子、全学同窓会発送資料同封手数料交付金、支部補助精算金等
	繰越金	635,000	1,295,893	660,893	現金、第四銀行普通預金、郵貯通常貯金、郵貯振替貯金
	合計	5,700,000	6,373,893	673,893	

支出の部	費目	前年度予算額(A)	今年度予算額(B)	比較(B-A)	説明
	会議費	250,000	250,000	0	諸会議交通費、会場費他
広報費		700,000	754,000	54,000	
	(「会報」発行費用)		401,000		理学部同窓会誌「会報17号」印刷代
	(「理学部は今」発行費用)		350,000		理学部機関誌「理学部は今」費用他
	(その他)		3,000		HP運営費
理学部支援事業費	700,000	700,000	0	理学部からの要請による支援事業、卒業祝賀会費補助	
名簿編集費	20,000	20,000	0		
負担金等	455,000	455,000	0	全学同窓会賦課金	
支部交付金	460,000	460,000	0	50,000 * 6 支部 + 首都圏支部160,000	
支部事業補助費	400,000	400,000	0		
事務費・通信費	100,000	70,000	-30,000	光熱水費、郵送料、払込手数料、印刷代、消耗品等	
事務局費	550,000	600,000	50,000	事務局人件費	
会員宛郵送費	800,000	850,000	50,000	会員宛会報などの送料等	
人件費	200,000	200,000	0	後援会パート手当	
予備費	1,000,000	1,000,000	0	28年度積立準備金	
積立準備金	65,000	614,893	549,893		
合計	5,700,000	6,373,893	673,893		

## 特別会計

特別会計	費目	収入	支出	残金	説明
	H27年度までの繰越金	13,000,000		0	13,000,000
H28年度積立金	1,000,000		0	1,000,000	定期預金(利息は一般会計に組み入れ)
	計	14,000,000	0	14,000,000	

# 事務局より

## 1、理学部同窓会「総会」開催

平成28年6月19日(日)駅南キャンパス「ときめいと」において総会が開催された。

### ◎議 事

- (1) 平成27年度事業報告・決算報告
- (2) 平成27年度会計監査報告
  - ・事業報告及び決算報告・会計監査は報告のとおり承認された。
- (3) 平成28年度事業計画・平成28年度予算（案）
  - ・提案のとおり承認された
- (4) 平成28年度役員、代議員数について
  - ・提案のとおり承認された
- (5) 個人情報保護規定について
  - ・役員会で規定を検討し制定することが承認された

## 2、広報活動

- ・正会員に会報16号はじめ雪華などの広報紙を送付した。

## 3、理学部からの要請にもとづく各種支援

- ・理学部卒業祝賀会の経費を補助
- ・グローバル人材育成プログラムへの支援

## 4、全学同窓会との連携について

- ・賦課金・分担金を応分負担し、財政的に貢献した。
- ・理事会、運営委員会に参加し、運営に貢献した。

## 5、会費及び寄付金について

- ・後援会と連携し、平成27年度新入生より会費を徴収した。

- ・財政力強化のため寄付金のお願いにより、多くのご寄付を頂いた。

## 6、その他

- (1) 平成27年度決算報告書・平成28年度予算書（別表1, 2）
- (2) 会報について
  - ・会報17号は自然環境科学科支部が担当
  - ・会報18号は地質学科支部が担当予定

2016年度（平成28年度）理学部同窓会役員名簿

役職	支 部	氏 名	役職	支 部	氏 名	
会 長	物 理 学 科	野本 憲雄	幹 事	化 学 科	本間 悟	
副会長	数 学 科	樋浦 卓嘉				田辺 薫
	物 理 学 科	麴沢 祐一				清水 榮一
	化 学 科	畠野 弘通			生 物 学 科	長谷川 博
	生 物 学 科	荒木 勉				堀 昌明
	地質科学科	田澤 純一				田村 伸夫
	自然環境科学科	尾原 祥弘			地質科学科	豊島 剛志
幹事長	首 都 圏	矢口たみ江				渡部 直喜
幹 事	地質科学科	渡部 直喜				畑澤 尚宏
	数 学 科	樋浦 卓嘉			自然環境科学科	加藤 直之
		武石 文雄				永井 宏明
		田中 環				矢口たみ江
	物 理 学 科	鈴木 重行		首 都 圏		安藤 勝利
		坂井 章				飛鳥 滋
笹川 民雄			監 事	物 理 学 科	岩見 敏明	
化 学 科	三ッ寄敏雄		生 物 学 科	藤間 真紀		

## 転退職された先生（平成28年3月に）

### 退職された先生

**自然環境科学科** 濱口 哲（教授）

昭和58年8月～平成28年3月  
（1983年8月～2016年3月）  
在職期間：32年  
専門分野：動物学、発生生物学

**地質科学科** 新川 公（准教授）

昭和55年5月～平成28年3月  
在職期間：35年  
専門分野：層位学・古生物学

### 転出された先生

**物理学科** 金 鋼 KIM Kang（准教授）

平成25年4月～平成28年3月  
（2013年4月～2016年3月）  
在職期間：3年  
専門分野：ソフトマター物理、化学物理  
転 出 先：大阪大学

新潟大学理学部同窓会（事務局）

住 所 〒950-2181  
新潟市西区五十嵐2の町8050  
新潟大学理学部内  
T E L 025-262-6261 F A X 025-262-6261  
E-mail ridoso@ad.sc.niigata-u.ac.jp  
U R L http://www.ridoso.jp/

### ❖編集後記❖

今号の編集は自然環境科学科支部が担当させていただきました。原稿依頼や文章校正にあたりまして、同窓会事務局に大変ご支援いただきましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。また、お忙しい中原稿をお寄せいただいた皆様、誠にありがとうございました。今号では、来年度の理学部改組についても書かれておりますので、ぜひ会員の皆様にも理学部の大きな改革について知っていただければと存じます。